

平成29年度 第1回高齢者支援部会

議事録

日 時: 平成 29 年 11 月 28 日 (火)

19 時 45 分～20 時 30 分

場 所: 帯広市役所 10 階 第 6 会議室

(会議次第)

- 1 開 会
- 2 会 議
 - (1) 平成 28 年度決算報告について
 - (2) その他
- 3 閉 会

(委員・専門委員)

- 出席 (9名)
大江委員、杉野委員、野水委員、酒井委員、畠山専門委員、濱専門委員、渡辺専門委員、池田専門委員、広瀬専門委員

(事務局)

- 介護保険課
内藤課長、藤原補佐
- 高齢者福祉課
五十嵐課長、安田課長補佐、永田地域包括ケア担当課長補佐

(議事録)

- 事務局
只今から、帯広市健康生活支援審議会第1回高齢者支援部会を開催させていただきます。委員及び専門員の皆様9名中8名のご出席を頂いておりますことから、本日の会議は成立しております。
議事に入ります前に、本日の資料の確認をさせていただきます。
事前に会議次第、平成 28 年度高齢者福祉課決算の概要(資料1)、平成 28 年度介護保険課決算の概要(資料2)を、送付しております。
また、本日、皆様の机の上に置いてあります資料は、委員及び専門委員名簿であります。不足の資料等ございましたら、お申し出ください。
よろしいでしょうか。
それでは、早速、会議に入らせて頂きますが、以後の進行につきましては、大江部会長にお願いいたしますと存じますので、よろしくお願いたします。
- 部会長
それでは皆さん、お晩でございます。それでは只今より会議に入りたいと思います。
先ず、議題の1番目、「平成 28 年度決算報告について」、事務局より説明をお願い致します。

● 事務局

それでは、初めに高齢者福祉課 決算の概要についてご説明致します。資料1の裏面をご覧ください。
表の左側は会計・目・事業区分となっています。

高齢者福祉課の会計は、一般会計と介護保険会計の2つの会計で執行しております。

平成28年度(表右側)一般会計の決算額は、13の事業は全て老人福祉費で、837,580,452円、介護保険会計は、介護予防事業費、包括的支援事業費、任意事業費にそれぞれ事業がありますが、合わせて257,017,184円となっています。

総事業費は表の下(歳出決算計(A)プラス(B))のところとなりますが、1,094,597,636円となっております。

右側には、主な事業を記載しています、高齢者おでかけサポートバス事業 193,734,825円、地域包括支援センター運営事業 163,047,717円、認知症高齢者支援事業 2,600,090円となっております。

表面をご覧ください。

平成28年度高齢者福祉課関係決算予算対比の増減が矢印で示されています。

左側、老人福祉費の上から7番目、高齢者おでかけサポートバス事業費でバス無料乗車証委託料と新規事業の高齢者いきいきふれあい館「まちなか」の運営補助金が含まれるがまちなかの運営補助金の増額分より、バス無料乗車証の事業者委託料が減額となっているため事業費全体としては、1.4%減となっております。

一番下の地域介護・福祉空間整備費は、平成27年度は市が補助する整備がなかったが、平成28年度は施設整備、介護ロボット導入補助等により前年比100%増、424,495,000円増額となっております。

右側の介護予防事業費が-34.4%となっております。二次予防事業として実施していた運動機能向上プログラムを一次予防事業の教室事業に統合し、事業所の選定をプロポーザル方式で選定したことにより、事業費が減額となっております。

包括的支援事業費の上から三つ目生活支援サービス体制整備事業費とその下の認知症高齢者支援事業費については、新規事業であることから前年比100%となっております。説明は以上になります。

● 事務局

それでは引き続き介護保険課所管分についてご説明させていただきます。

資料2をご覧ください。

まず1ページ目でございます。第1の被保険者数(65歳以上)の状況です。

右側第6期の平成28年度末では、総人口は、168,121人、第1号被保険者、45,416人、占める比率は27.01%、平成29年度9月末では、総人口167,657人、第1号被保険者数が46,518人、占める比率は、27.75%となっております。

下のグラフですが、人口は棒グラフで、折れ線グラフが、第1号被保険者の人数となっております。人口は徐々に減少、それに対し第1号被保険者数は増加になっています。

続きまして2ページをご覧ください。要支援、要介護の認定者数についてです。

第六期計画中、平成28年度の要介護認定者数内訳につきましては、要支援1、2、要介護1を合わせると、5,154人、全体が9,187人で、軽度者の方の申請が56.1%になっている状況でございます。介護度別に言いますと、下段(グラフ)の要介護認定者の状況でご確認頂けるかと思えます。

続きまして3ページをご覧ください。3ページにつきましては、介護保険給付費(介護サービスにかかる費用)の状況となっております平成28年度につきましては、第六期計画の計画値と実績値が記載してございます。下の合計になりますけれども、計画値では、12,228,894,000円、実績では12,265,481,000円ということで、計画比100.3%となっております。

お話したいことは、平成 28 年度の計画値で、平成 28 年度に新しい総合事業の実施を予定しておりましたが、実際には平成 29 年度から実施を予定しています。よって、計画値部分が実績値より低い数値となっております。

続きまして4ページをご覧ください。介護サービス別支給量の計画と実績になります。注目して頂きたいのが、新しい総合事業の関係になりますが、訪問系サービスの内、介護予防訪問介護の計画値と実績値の比率が 179.5%、通所系サービスの介護予防通所介護の比率が 198.8%。居宅介護支援が 122.9%とそれぞれ数値が突出しております。この要因が先ほどお話した新しい総合事業の平成 29 年度からの実施予定によるものであります。そのほかに、実際のサービスの量が増えた部分につきましては、訪問系サービスの中では介護予防訪問リハビリテーションと居宅療養管理指導が増えております。

続きまして5ページ目をご覧ください。保険料の状況となっております。介護保険制度始まった時からの保険料の推移を載せております。第六期計画で平成 27～29 年度までの保険料につきましては表右半分に、段階と保険料を記載しておりますのでご確認くださいと思います。

2番目の保険料収納状況について、平成 28 年度実績は、人数 47,636 人、保険料調定額 2,775,201,000 円、保険料収納額 2,738,713,000 円、収納率 98.69%、平成 27 年度と比較すると 0.16%上昇しました。

3番目の表には、特別徴収と普通徴収の内訳が記載されております。

4番目の保険料の軽減制度につきましては、平成 28 年度につきましては、353 人の方に 5,407,000 円の保険料の軽減を行っております。軽減前の額 14,099,000 円、軽減後の額 8,692,000 円、軽減率 38.35%となっております。

最後に6ページになります。介護保険会計全体の、平成 28 年度の決算の概要について記載しております。ページの中ほどにございます、歳出の合計額ですが、予算計上で 13,520,209,000 円に対して、決算では 13,169,970,000 円となり、350,239,000 円の不用額が生じているところでございます。予算に対する執行率は、97.41%となっているところでございます。

下段の表の、歳入としましては、予算 13,520,209,000 円に対して、決算では 13,492,644,000 円となっているところでございます。差し引きの額が、27,565,000 円となっております。最終的には一番下の段の収支差になりますと、322,674,000 円の黒字となっております。この中には、国庫支出金などの精算分が 73,785,000 円ありますので、これらを除いた実質的な黒字額 248,889,000 円につきましては9月審議会に提案後、市の介護保険支払準備基金に積み立てたところでございます。この積み立てにより、平成 29 年度末における基金残高は、6億6,700万円ほどになる見込みでございます。このお金を第七期計画の保険料軽減に当てるよう、只今作業をしております。

説明は以上でございます。

- 部会長

ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問などはございますでしょうか。

- 委員及び専門委員

高齢者は増えているが、高齢者おでかけサポートバス事業の費用が減っている事は、バスの利用が減っている事なのか。

- 事務局

平成 26 年度までは利用実績は上向きでしたが、27、28 年と実績は下がっている状況です。毎年アンケ

ートを実施し、いろいろと分析は行っていますが、年々、高齢であっても免許を保有している人が増えてきている事が要因の1つにあげられます。また、使用する予定はないけれども交付だけは先に済ませる人もいます。

- 委員及び専門委員

私は、自分で車を運転していますが、冬になり早い時間は運転をして、今後はバス券交付を考えています。ただ、一度乗って見ないとバスの巡回路線が分からない、目的地に着くまでに時間がかかかりますので、早めに家を出ないといけない。

- 事務局

バスに乗ったことがない人が初めて利用するのは、なかなか難しく、まずはバスの乗り方を丁寧に対応したいと思います。バス券を取りに来て頂いたときには、丁寧に路線の資料を見せながら説明は行っています。自分の住んでいるところのバス停がどこにあるのかを説明しなければご利用していただけないと考えます。

- 委員及び専門委員

バス券を使い慣れている人は、有難いと言っているので、利用するように練習します。

それから、緊急通報システムの利用率のことで。自分の希望するところに通報システムを設置できるのでしょうか。茶の間につけていると、夜休んでいるとそこまで行かないとならないと危ないのではないかと心配している人がいますね。

- 委員及び専門委員

電話が付けられるところに本体があり、別にスイッチ(ペンダント型)があるのでベッドにかけて使用している方もいらっしゃいます。

- 委員及び専門委員

緊急時に手を伸ばしてそこにあるものは利用できる。知っている人は、茶の間の電話の上に置いていて、実際のときはまだ経験がないのでどうなるかな、と言っていました。

- 委員及び専門委員

実際に、月にどの位の利用頻度があるのでしょうか。

- 事務局

緊急通報は、固定型と携帯型の2種類ありまして、固定型は電話機のところにつけて置きまして、ペンダントスイッチは無線で行い、寝室などに持っていくことを想定しています。携帯型は、家の内外でも利用可能です。最近、固定型から携帯型に変更する方が増えてきています。

通報件数は、平成28年度は、帯広市内全体で17,351件、そのうち正報(緊急)は、89件。89件中67件が、救急車で搬送されています。それ以外の方は、家族等と呼んでほしいということで、対応しています。

- 委員及び専門委員

認知症高齢者支援事業で、今後も初期集中支援事業や認知症カフェをベースに予算化を図るのでしょ

うか。

- 事務局

来年度の予算編成は、行っている最中ですが、ベースとして初期集中支援事業チームは、管内の町村とも共同して行っているため、管内町村と市の件数を考慮しながら検討しています。認知症カフェも今後は増やしていく方向です。

- 委員及び専門委員

認知症カフェをやっている方々は、結構、行き詰まり感を感じているようです。一度、カフェをやっている方々で、どうやったら集まってもらえるか等の意見交換ができる場を設けてほしいと思います。それから、認知症カフェの予算化を検討する上で例えば認知症カフェで、軽度の認知症の測定が出来るとか、そういう面で予算をつけてもらえると有難いです。また、認知症ガイドブックは平成 29 年度は作成しているのでしょうか。

- 事務局

認知症ガイドブックは作成済みです。認知症カフェや認知症施策は、各地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置させて頂いておりまして、その方と色々と企画して実施しています。認知症カフェについて、推進員の皆様がそれぞれ足を運んで頂いて現状を把握しながら、横の連携をしながら進めていきたいと思っています。

- 部会長

実際にいくら助成があるのでしょうか。

- 事務局

助成はありません。

- 部会長

認知症初期集中支援チームは、1件当たりいくらかかるのですか。

- 事務局

チームの委託料で人件費などが含まれます。積算根拠としては、1件いくらではお出ししていません。

- 委員及び専門委員

サービス付高齢者住宅の人が介護保険を使った場合は、どこに費用に表れているのでしょうか。

- 事務局

資料2の3ページの居宅介護サービス給付費に当たり、これが在宅サービスにあたります。また、居宅介護サービス計画給付費は、ケアプランを作る費用にあたります。これがサービス付高齢者住宅に住む方の在宅サービスの費用にあたります。

- 委員及び専門委員

資料2の4ページでは、どこに含まれますか。

- 事務局

4ページの大項目の居宅サービスの特定施設入居者生活介護は介護付有料老人ホームを指していて、サ高住でもヘルパーなどが来る場合と建物はサ高住ですけれども、介護付有料老人ホームになっている場合も含まれます。また、大項目地域密着型サービスのうち、認知症対応型共同生活介護はサ高住に関係ありません。また、地域密着型介護老人福祉施設は、密着型の特老なので除きます。その他は、サ高住に入りながら利用できるサービスになります。

- 委員及び専門委員

短期入所系は平成26年度から見ると27年28年と共に下がっている原因は、サ高住の影響でしょうか。また、補助金など不正があると市民は不安を抱くと思うので、介護保険等も含めて帯広市としてしっかり関わり、管理しなければならないのではないのでしょうか。

- 事務局

サ高住の規定がありまして、市としては口を出すことが出来ない状況です。また、ご指摘の短期入所の稼働率の低下については、高齢者向けの住まいが充実していることが一番の要因だろうと思っています。

その他の在宅サービスについては、サ高住に住まわれる方が多くなってきていますが、単純にサービスの利用数が増えるとは考えておりません。自宅にいても、サ高住にいても、サービスを使う人は使う。しかしながら、自宅からサ高住に移られる方は、サービスを必要として移られると思うので、そういった意味では利用数は増えると考えます。同じ状態で移られる場合は、増える事にはならないと考えています。

- 委員及び専門委員

在宅介護の介護認定4の人とサービス付高齢者住宅で暮らす介護認定4の人では、使う量が違うのではないのでしょうか。使う人はフルに使うので、市の保険費用も増えるのではないかと。

- 事務局

使う量は、サ高住が使いやすさはあると思います。費用面は、ケアプランの内容にもよりますが、旭川での問題もあるので帯広市としてはしっかりと対応をして行きたいと思っています。

- 委員及び専門委員

サ高住自体、介護保険サービスを使いプラス効果になっていく印象です。サービスが使えないとサ高住の運営が難しくなるのでは。また、サ高住が悪いわけではないのですが、施設に入らなきゃならない人がサ高住に入っているために、サ高住での事故が多くなってきていると思うので、誰が管理をしていくかが問題かと。

- 委員及び専門委員

在宅の一人暮らしが大変だからと、サ高住に移られる方が多くいるので、その後の質だとか介護の重い人も対応できるのかとか、誰が管理をしていくのか、ということですね。サ高住も在宅の範囲ではあるので、何がしかの対策をしていかないと、これからも利用したい人はたくさん出てくると思います。一般の高齢者

だけでなく障害を持った方もたくさん入っています。

- 部会長

いずれ歳を取って認知症の問題も露見してくると思われまして、そういった初期対応をどうするのかというものもあります。

- 委員及び専門委員

資料1の地域介護・福祉空間設備費の介護ロボット導入支援補助8施設についてお聞きしたいのですが、本当に人材不足で大変なので、帯広市としては導入に向けての計画をどのように考えていますか。

- 事務局

帯広市としては、独自に補助金を設けることは考えておりませんが、国の補助金を使用しながら導入を進めて行きたいと考えています。

- 委員及び専門委員

導入8施設の評価は把握されていらっしゃるでしょうか。

- 事務局

今回、導入した事業所については、導入の評価を各事業所から提出して頂くこととしておりまして、導入状況を把握、評価していきたいと思っています。

- 部会長

他ご質問などございますか。

(質疑特になし)

それでは、次の議題「その他」ですけれども、事務局から何かございますか。

- 事務局

ご審議、ありがとうございました。

次回の高齢者支援部会(単独部会)につきましては、来年(平成30年)2月に予定しています。

また、高齢者支援部会と健康づくり支援部会の合同部会は12月26日に開催を予定しておりますので、よろしく願いいたします。また、後日改めてご案内申し上げますので、よろしく願いいたします。

- 部会長

その他、何かございますか。

- 委員及び専門委員

資料1の高齢者在宅生活支援事業費の食の自立支援(配食)事業について、生協に行った際に見た配食チラシに、配食料金が800円とあり高いと感じたことがありました。

- 事務局

色々な事業所で料金設定されているので様々ですが、生協は、生協でのサービス等を含めた料金設定にしていると思われます。帯広市としては、配食サービスが必要と判断した人の自己負担は低くしているところではあります。

- 委員及び専門委員

実際には、いくら自己負担になるのですか。

- 事務局

帯広市の配食サービスを利用している方の自己負担額は、470円です。保温容器を使用し、冷凍食品を使わないように努めています。

- 委員及び専門委員

食事を採るのが難しい場合に配食を、と簡単に言いますが、一度利用すると便利なので逆になかなか止められず利用してしまうため、料金の把握を出来るようにしなければならないと思います。

- 部会長

他になければ、これで終わります。皆さん、ありがとうございました。